

# 本日のテーマ「ハマる！時代小説!!」

実施日：2023年10月22日

## 1 「殺しの四人」

池波正太郎／著 2001年 講談社 【SNイ】

関連資料「池波正太郎の江戸料理を食べる」

野崎洋光、重金敦之／著 2021年 朝日新聞出版 【596.2】

時代劇でみるのは、ちとちから藤枝梅安でした。緒形拳が演じた最初のシリーズは、池波正太郎は お気に召まなかつたらしいです。  
どの話にも何か食ってる場面 がある、それがおいしうでした。著者も 美食家だったようです。

## 2 「巷説百物語」

京極夏彦／著 2003年 角川書店 【SNキ】

これも必殺仕事人のようなお話です。  
正攻法では惹けない悪人を妖怪のせいにして懲らして破滅させるのみ。本当に妖怪が出てくるわけではなく、一味の 中心人物、又市のロバ、ヤ行旅行に惹かされるのですか...  
「おんぎん 上げておる 御行奉為」のセリフがかういひ。



## 3 「卵のふわふわ 八丁堀喰い物草紙・江戸前でもなし」

宇江佐真理／著 2007年 講談社 【SNウ】

偏食家の主人公のぶと、女性不信の夫、正一郎が「食事」を 通して心の距離を縮めていくお話です。変わり者の舅、 忠右衛門がすごくいいキャラしてファンが多数...。 食のふことの本質や食事の有り難さにふれ、良い意味で人間 くささを感じる温かい作品です。

## 4 「雛の鮎 料理人季蔵捕物控」

和田はつ子／著 2007年 角川春樹事務所 【SNフ】

料理人の季蔵が料理を通して江戸の表沙汰にできない 問題を暴いていく捕物帳長です。  
読んでいただけでお腹が空いてくる調理工程の描写の細かさ に加え、登場人物の関係性にも注目したいところ。  
4巻まで出ており、長編めまわす。続巻中

時代小説にもジャンルがあります。

「剣豪小説」「捕物帳」「市井小説」「伝奇小説」「股旅物」...など。  
チャンバラ ミステリー まちの人々のくらし ファンタジー ハードボイルド

みなさんは、どのジャンルがお好みですか？

## 5 「ヴォイド・シェイパ」

森博嗣／著 2011年 中央公論新社 【Nモ】

こんなタイトルですが、剣豪小説なんです。  
しかも登場人物の名前はカタカナなんです。  
山で隔離されて育った少年ゼンが人と出会い、本当の強さ とは何か... 答えを求めて旅をする成長物語です。  
やわい時代背景がないので、時代小説初心者にもお薦めです。



## 6 「妖怪の子預かります」←第一部の1巻です。10巻おぼす。

廣嶋玲子／著 2016年 東京創元社 【SNヒ】

「妖怪の子、育てます」←第二部の1巻。続巻中。

廣嶋玲子／著 2021年 東京創元社 【SNヒ】

12歳の少年弥助は盲目の按摩。干弥(と実は妖怪)と 暮らしています。干弥の弥助に対する理解が 素晴らしい。1部のラストは泣けます。江戸が舞台の ファンタジー。



## 7 「牛姫の嫁入り」

大山淳子／作 2016年 KADOKAWA 【Nオ】

伝説の美少女とうわさされていた重姫は、当主の溺愛に より誘われ嫁入りした...。姫の誘拐に失敗して、 美しい女忍び、コウは、命を助けてもらう代わりに、 「1ヶ月で重姫を美しくみせる」と約束するが...

## 8 「眩(くらら)」

朝井まかて／作 2016年 新潮社 【Nア】

関連資料「北斎娘・応為栄女集」久保田市洋／編著 2015年 藝華書院 【721.8】

実在の人物について書かれた歴史小説でもあります。  
主人公のお栄は北斎の娘。仕方なく嫁ぐが、絵師の 夫に「下手だ」と鼻をもらったせいで悪縁がたまる。  
再び嫁ぐこともなく、絵の研究に打ち込むお栄は、現代の女性 の ようです。江戸のレゾナンスともいわれる絵師の物語。

